



校訓	理想は高く 心清らかに	教育目標	未来を拓く、心豊かな心身ともにたくましい 生徒の育成 ～感性を磨き自立を育む教育～
----	----------------	------	--

命の不思議さ！



久しぶりに一升瓶を下げて父の家に行きました。家は同じ敷地内で目と鼻の先にあるんですが、最近忙しさにかまけてなかなか顔を見せられなかったものですからとても喜びましてね。学校からの帰り道に多良木の焼鳥屋に寄って、父の好きな焼き鳥を買っていきましたのでよけい喜んでくれました。

父は普段は借りてきた猫のようにおとなしくて無口なんですけど、アルコールが入ると、「ちった黙っときない！」と制するくらいしゃべります。先日も飲むほどに口が滑らかになりしゃべり始めまして、いつもお決まりの話題、戦争中の話に及びました。

父は先の大戦、太平洋戦争に従軍していたんですけど、配属先はソ満国境（旧ソ連と中国の国境）の近くだったそうです。ある日、上官から呼ばれたので行ってみると、もう一人呼ばれていて、青森県出身の人だったんですけど、その人と父に上官が話をされたそうです。「実は、二つ任務があるんだが、一つは暗号解読の任務、もう一つは国境線での情報収集活動である。二人に頼みたいのだが、どちらかを選んでもらいたい。」父は迷って、なかなか決めることができなかつたんですけど、もう一人の人も迷っていたらしく、それを見た上官が「なかなか決まらんようだが、そうしていても仕方ないからジャンケンで決めたらどうだ。勝った方が先に決めろ。」と言われたそうです。それで、ジャンケンしたら父が負けて、青森の人が情報収集の方を選ばれたんだそうです。父は自動的に暗号解読になったわけですが、それが決定的な運命の分かれ道になったらしいんですね。

日ソ不可侵条約を破ってソ連軍が参戦し国境を越えてきましたので、日本の敗戦は決定的になったわけですが、情報収集を選んだ青森の人は国境線で捕虜になり、結局スパイ活動をしていたということで処刑されたんだそうです。自動的に暗号解読にまわった父は無事に生きて帰ってきたわけです。もし父がジャンケンに勝って情報収集の方を選んだか、又は青森の人が暗号解読の方を選んでいたら、多分、父は生きてはいなかったでしょう。そうしたら、私は、今ここにはいないことになります。もちろん、一中の生徒諸君にも先生方にも、そして保護者の皆さんにも出会うことはなかったわけです。不思議ですね～、命って！

私の命に限らず、すべての人の命は偶然や必然がいくつも重なり、本当に紙一重のところで生まれてきたと言ってもいいのではないのでしょうか。人知を越えた神や仏の意志すら感じますよね。それだけに、この貴重でかけがえのない命を大切に、命の炎が燃え尽きるまでとことん生き抜かなければなりませんね。

父はかなり酔いがまわりまして、「お前の命は俺がジャンケンで負けたけんあるようなもんぞ！魂ば入れて大事にせろ！」と言って轟沈してしまいました。父の寝顔を眺めながら、改めて自分が今ここにいることの不思議さを噛みしめたことでした。